

NEXT Special Exhibition

令和2年度
企画展

蒔く・穫る・耕すーかごしまの農具ー

会期：令和2年9月8日(火)～令和3年1月17日(日)

会場：黎明館3階 企画展示室

鹿児島県は、今でこそ全国有数の農業県として知られていますが、もともとは農業生産性の低い土地柄でした。かごしまの先人たちは、厳しい自然条件の中で農業を営み、これを克服してきました。本展では、一年の農事サイクルの中から、耕起や整地に関わる「耕す」、作物の播種や植付に関わる「蒔く」、収穫や脱穀に関わる「穫る」の三つを柱として、これらの農作業に使用された農具を紹介し、かごしまの伝統的な農業の営みに迫ります。また、地域による農具の違い、『成形図説』や『四季耕作図』に描かれた農具についても実物資料と比較しながら紹介します。



牛馬にひかせて畑を耕す
イザイ(天城町) 黎明館蔵

黎明館
NEWS

常設展示図録、デザインを一新

昨年行われた常設展示のリニューアルに合わせて、このたび「常設展示総合案内」が新しくなりました。今回新たに、「御楼門」「発掘調査」「明治維新とかごしま」といったページが加わったり、資料の新規掲載があったりと、これまで以上に読み応えがある内容となっています。敷地内の歴史から、常設展示の中身まで、まさに黎明館が凝縮された1冊です。黎明館をよく知る方も、そうでない方も、これを機にぜひお手にとっていただき、お楽しみいただければと思います。



税込2,000円/
販売場所 CHIN JUKAN POTTERY 喫茶室
(1階 カフェ&ショップ)

「灰ドーム」
御楼門バージョン登場!



税込880円

その他、グッズも制作中!
続々登場予定です。

展示室貸会場イベントスケジュール(8～10月)

期間	イベント	会場	観覧料	主催者お問い合わせ先(敬称略)
8/8(土)～8/16(日)	第38回南日本女流美術展	第2・3	有料	南日本新聞社事業部 099(813)5052
8/26(水)～8/30(日)	第19回鹿児島二紀展	第3	無料	二紀会鹿児島支部 橋田 洋明 099(285)7882
9/9(水)～9/13(日)	第29回シルバー文化作品展	第2・3	無料	社会福祉法人鹿児島県社会福祉協議会 長寿社会推進部 099(250)7441
9/18(金)～9/22(火)	本野溪舟「ふるさとの詩」書芸展 ー火の鳥俳句会「私の一句」展ー	第3	無料	本野 溪舟 099(243)8561
9/26(土)～10/4(日)	第33回MBCサムホール美術展	第1	有料	MBC南日本放送事業部 099(254)7112
10/6(火)～10/11(日)	第46回サンジャック女流彫塑展	第3	無料	サンジャック女流彫塑会 協同 奈津江 090(9405)3539
10/8(木)～10/11(日)	第39回大東文化大学鹿児島県人書道展	第1	無料	大東文化大学鹿児島県人書道会 杉森 賢一 090(7928)2940
10/27(火)～11/1(日)	日本風景写真協会鹿児島支部写真展	第3	無料	日本風景写真協会鹿児島支部 099(256)1610

Information

※新型コロナウイルス感染症の感染予防とその拡大防止のため、展示や催し物等の予定は変更になる場合があります。最新の情報は、ホームページやお電話にてご確認ください。



黎明館

開館時間 9:00～18:00(入館は17:30まで)
休館日 月曜日(祝日の時は翌日)、毎月25日(土・日・祝日の時は開館)、12月31日～1月2日
観覧料 一般 400円 高・大学生 250円 小・中学生 150円
(年間パスポート)
一般 800円 高・大学生 500円 小・中学生 300円
※1年間の有効期間中、常設展示を何度でもご覧いただけます。
※障害者手帳の提示で無料 ※団体(20名以上)割引あり。※鹿児島県内に居住する70歳以上無料(令和2年度まで) ※鹿児島県内に居住する18歳以下は、土日祝日は無料(令和2年度まで)

アクセス 鹿児島空港から鹿児島市内行きバス「金生町」から徒歩10分
JR「鹿児島駅」から徒歩15分
JR「鹿児島中央駅」から市電・バス利用
市電・バス「市役所前」または「水族館口」下車、徒歩7分
鹿児島市内巡回観光バス「薩摩義士駅前」下車すぐ
無料駐車場あり(普通車125台 バス20台)

Follow us!

ホームページ、SNSで黎明館情報を発信しています。フォローして、ぜひチェックしてみてください。



Homepage



Facebook @reimeikan



twitter @official_reimei



Instagram @official_reimei

鹿児島県歴史・美術センター 黎明館

〒892-0853 鹿児島市城山町7番2号
☎099-222-5100 FAX.099-222-5143

REIMEI

vol.38

No.2

Kagoshima Prefectural Museum of Culture Reimeikan

鹿児島県歴史・美術センター黎明館だより「黎明」

Contents

特集

企画特別展「鹿児島の城館」
令和2年9月30日(水)～11月3日(火)

調査史料室だより
『鹿児島県史料』刊行100冊

企画展余話

殿様や姫君に愛でられた犬、狆

御楼門さんぽ

常設展示図録、デザインを一新

特集

城館 鹿児島の

鹿児島県歴史・美術センター黎明館だより

REIMEI 黎明

vol.38

No.2

2020年9月1日発行 編集・発行:鹿児島県歴史・美術センター黎明館 千892-0853 鹿児島市城山町7番2号
☎099-222-5100 FAX.099-222-5143

http://www.pref.kagoshima.jp/reimeikan/

鹿児島城館

後世の交通の要衝に立地する 先史・古代の城郭

第1章 先史・古代の城郭

広大な集落を環濠が巡る佐賀県吉野ヶ里遺跡と同様に、大溝(幅2m前後×深さ1.5m以上)で囲まれた集落遺跡として、県内でも弥生時代の北麓遺跡(鹿児島市)や古墳時代の荒園遺跡(曾於郡大崎町)が発見されています。吉野ヶ里遺跡は古代官道(都と地方国府を結ぶ主要道)である西海道肥前路が近接し、北麓遺跡は中世以降の谷山麓を形成しており、後世の交通の要衝に立地しました。

唐・新羅連合軍に対し百済を支援した白村江の戦いに敗れた大和政権は、大陸からの侵入に備えて北部九州一瀬戸内海一畿内に古代山城を整備します。大宰府周辺の大野城・怡土城(福岡県)、基肄城(佐賀県)、鞠智城(熊本県)等は古代官道に接続し、緊急連絡や兵員・物資の輸送に有利でした。

文献史料上の稲積城は所在地不明ですが、隼人対策の古代山城として南九州に置かれた可能性が指摘されています。



吹上町田尻金銅菩薩立像
(興福寺有形文化財・黎明館寄託)

交通の要衝に立地する 中世平地居館・守護所

第2章 南九州の中世城館

急峻な山城をイメージしやすい中世城館は、本来、水陸交通の要衝をおさえる平地の正方形や長方形を基調とした区画の居館が主流のようです。

石見国(島根県西部)益田氏は、益田川右岸の平地居館を拠点にし、戦乱期のみ益田川左岸の山城上に居館を構えます。阿波国(徳島県)では、大半の中世城館が吉野川流域の平野部の平地居館です。

県内では、鹿児島市谷山地域で、南北朝期前後に谷山城の活動が見られますが、中世の方形区画が確認される北麓遺跡一帯が谷山麓として同地域の中心になります。南九州市川辺では、万之瀬川水系によってもたらされた豊富な貿易・交易品が出土した馬場田遺跡や、川辺郷地頭仮屋跡の中世遺構が平地居館として検出されています。

古代以来の統治機構を掌握して、任国支配の円滑化を目指す守護は、国府やその近郊の交通の要衝に守護所を設けます。少弐氏や九州探題今川氏は大宰府、後の九州探題泷川氏は肥前国守護を兼ねて西海道肥前路沿いの綾部、大友氏は豊後国府近郊等に守護所を設けました。周防国衛出身の大内氏は周防・長門国守護を兼ねると両国の中央部で石見国に通じる山口を守護所としました。

「洛中洛外図屏風」や発掘成果から、室町時代の各地の守護大名は、將軍との関係性に規制された規模の方形区画の平地居館を拠点にしていました。館内では稀少な貿易陶磁器等が使われており、大友氏・大内氏・越前朝倉氏等は貿易船の保護を島津氏に依頼していました。

薩摩国府所在地は鎌倉時代を通じて島津氏領ではなく、在国が確認される5代貞久は国府と川内川を挟む礎山城を守護所としました。南北朝期に島津氏が大隅国守護を兼ねると、大隅進出拠点として、6代氏久は東福寺城(鹿児島市)に移り、その後も7代元久は清水城に、15代貞久は内城と近隣に拠点を設けます。東福寺城麓の様子は開発が進み不明瞭ですが、清水城期の館(現清水中学校の地)や内城期の館(現大龍小学校の地)は、他地域の守護館同様に方形区画の平地居館です。

はじめに

黎明館が所在する鹿児島(鶴丸)城本丸跡に、今年3月御楼門が竣工し、4月に完成式が行われました。御楼門は、明治6(1873)年の火災で本丸殿舎とともに焼失し、二之丸以下も同10年の西南戦争で失われ、藩政時代の建築物は残っていません。御楼門の再建は147年ぶり、鹿児島城が機能した時代の建築物としては143年ぶりの再建であり、これを記念して、鹿児島城館を振り返る企画特別展を開催します。



和歌山市出土遺物(和歌山市蔵)
タイ産鉛インゴットを輸入し、戦場で弾丸に加工

第3章 誕生 鹿児島城

島津義弘が参戦した関ヶ原の戦いに敗戦した後、慶長6(1601)年頃から、初代藩主となる忠恒(家久)が、鹿児島城の築城に着手します。海からの攻撃・侵入を懸念する義弘は、再考を求めますが、家久は「経済の中心としての立地」を重視したようです。

当初は、黎明館敷地背後の城山を本丸、黎明館敷地を当主居所としました。やがて山麓の居所を本丸扱いますが、天守はもちませんでした。

鹿児島市の町並みについて中世に遡る絵図は残されていませんが、「鹿児島城」関連絵図が、県内外に多数伝えられたり模写されてきました。絵図によっては本丸と二之丸境付近に、濠が描かれているものと無いものがあります。県立図書館敷地の黎明館側で、近年の発掘調査により濠が埋められていることが確認されました。

また、江戸時代の記録からは、鹿児島城内での規則や、当主や家臣たちの日常の様子がうかがわれます。玉里島津家資料(黎明館蔵)等の歴史史料・美術工芸資料や、城内からの発掘調査出土品をとおり、鹿児島城内の日常に触れます。

南九州の交通の要衝・経済の中心に立地する鹿児島城

第4章 鹿児島城のその後

明治政府のもとで、多くの城郭は廃止されましたが、鹿児島城は熊本鎮台第二分営の拠点として存続しました。明治5(1872)年には西国行幸する明治天皇に供奉して西郷隆盛が御楼門から鹿児島城に入城します。行幸時の鹿児島城下の貴重な古写真が残っています。建設や補修に関する指図(設計図)や同時代の模型等が残っていない鹿児島城では、この古写真の写真解析をとおり、御楼門の復元が行われました。

西南戦争で多くの人材を失った鹿児島では、西南戦争後、学校整備が求められました。礎の鹿児島紡績所技師館(異人館)を、黎明館敷地(現在、常設展示場望岳堂がある付近)に移設し、その後の学校施設の中核として活用しました(異人館は昭和11(1936)年に現在地に再移設されました)。学校は数度の組織改編の末、明治34年に現在の鹿児島大学の前身、第七高等学校造士館として、多くの人材を育成しました。黎明館敷地には、七高の門や記念碑が残っています。城内の発掘調査では、インク瓶や注射器なども出土しています。

本丸御角櫓近辺の御池に架けられていた石橋(九草橋)は、七高施設建設に伴う御池の撤去後、鹿児島市鴨池動物公園の庭園に移設・利用されました。明治100年にあたる昭和43年以降、明治百年記念事業の進展と、鹿児島城跡地からの鹿児島大学移転に伴い、明治百年記念館(現在の県歴史・美術センター黎明館)建設に際し、鹿児島市から九草橋等の石材が黎明館裏手に再移設されました。

黎明館や周辺施設の建設時には、鹿児島県教育委員会や鹿児島市教育委員会が発掘調査を行い、その後の石垣保全事業や御楼門建設時にも関連調査が行われ、鹿児島城関連の遺構を検出しています。

御楼門再建は、平成25(2013)年以降、民間の提言を受けて寄付金を募集し、目標額に達した同27年に民間と県が構成する「鶴丸城御楼門建設協議会」が設立されました。その後、文化財調査と設計を進め、同29年発注、同30年起工、令和元(2019)年上棟の後、今年竣工、完成式を迎えました。



鹿児島城絵図(東京大学史料編纂所蔵)



中国西国巡幸鹿児島市御下図
(都城市立美術館蔵)



明治天皇巡幸鹿児島市御下図
(黎明館蔵)

関連イベント

詳しくは黎明館ホームページでご確認ください。

記念講演会① 無料

【日時】令和2年10月10日(土)
13:30~15:00

【会場】黎明館2階講堂(88席)
※往復乗車による事前申込

【講師】佐賀県立名護屋城博物館
学芸員 村松洋介氏

【演題】「島津義弘陣跡の
発掘調査成果と肥前名護屋」

記念講演会② 無料

【日時】令和2年10月17日(土)
13:30~15:00

【会場】黎明館2階講堂(88席)
※往復乗車による事前申込

【講師】鹿児島国際大学国際文化学部
教授 太田秀春氏

【演題】「鹿児島城の近代」

記念講演会③ 無料

【日時】令和2年10月24日(土)
13:30~15:00

【会場】黎明館2階講堂(88席)
※往復乗車による事前申込

【講師】鹿児島国際大学短期大学部
名誉教授 三木靖氏

【演題】「鹿児島城の城と鹿児島城」

ふるさと歴史講座 無料

【日時】令和2年10月31日(土)
13:30~15:00

【会場】黎明館2階講堂(88席)
※往復乗車による事前申込

【講師】鹿児島大学法文学部
准教授 小林善仁氏

【演題】「近世の鹿児島城と城下町」

展示解説講座 無料

【日時】令和2年11月1日(日)
13:30~15:00

【会場】黎明館2階講堂(88席)
※往復乗車による事前申込

【講師】黎明館
主任学芸専門員 上村俊洋

【演題】「鹿児島城の城館」

【会期】令和2年9月30日(水)~11月3日(火)

【休館日】10月5・12・19・26日、11月2日

【開館時間】9:00~18:00

(初日一般公開は10:00~)

【料金】一般 800(600)円
高・大学生 500(350)円
小・中学生 無料

※()は、鹿児島及び団体20名以上料金
※別途発掘場跡・礎所など詳しくは、
ホームページをご覧ください。

【会場】黎明館2階 第2特別展示室

【主催】黎明館企画特別展
「鹿児島城の城館」実行委員会
(鹿児島県歴史・美術センター・黎明館・
南日本新聞社・MBC南日本放送)

【後援】鹿児島県教育委員会
鹿児島市教育委員会
NHK鹿児島放送局
KKK鹿児島放送

※新型コロナウイルス感染症の
感染予防とその拡大防止のため、
予定が変更になる場合があります。

『鹿児島県史料』刊行100冊

—過去と現在と未来を結ぶ“史料”—

調査史料室長 栗林 文夫

今年3月13日に、『鹿児島県史料 旧記録拾遺 地誌備考七』と『同名越時敏史料九』(以下、『同』は略す)の2冊が刊行され、『鹿児島県史料』(以下、『県史料』)は通算100冊目を数えることとなりました。第1冊目の『旧記録 追録一』が昭和46(1971)年3月30日の刊行でしたから、実に49年余りの歳月がかかったこととなります。

この間、『県史料』刊行に携わってこられた多くの方々の方ならぬ御芳苦に、感謝申し上げます。100冊刊行は一時の通過点として、これからの1冊1冊をできる限り最高水準の『県史料』とするべく、我々編さんに携わる職員一同研鑽に励んで参りたいと思います。

ところで、100冊分の『県史料』には多くの史料が収められており、歴史的「事実」を語る重要な証人として、学問・教育・観光・芸能など多様な分野で活用されています。ここではその一例として、かつて『旧記録拾遺 家わけ四・八・九』として刊行された『種子島家譜』を利用しながら、痘瘡ウイルスが原因で発症する「痘瘡(天然痘)」という感染症に、島内の人々がどのように対処したのか概観してみたいと思います。痘瘡は死亡することが多い大変怖い病気でしたが、昭和55(1980)年にWHOが撲滅宣言を出し、地球上から消えてしまいました(酒井シヅ『病が語る日本史』講談社、2008年)。

種子島では江戸時代に数回痘瘡の流行が見られます。天和2(1682)年の「春より夏に至り、島中疫癘(疫病)痘瘡。老若死者多し」(原漢文、以下同)という記事が島内での痘瘡の初見です。その後、元文2(1737)年、寛延3(1750)年～宝暦元(1751)年、享和元(1801)年、文化15(1818)年、天保7～8(1836～37)年、弘化4(1847)年などに痘瘡の流行が見られます。これ以外にも痘瘡に関連した記事は多く見られますので、頻りに島内に侵入していたようです。特に元文2年の記事には、「死者千人に及ぶ」と見えます。翌年の島内の人口が13,729人でしたので、全人口の約6.7%が亡くなったこととなります。

医学が未発達な前近代の社会において、痘瘡のような疫病は疫神(病気を流行らせるといふ神)による仕業と考えられていました。そのため各地で、独特な宗教的・民俗的対処方法が実践されていました。種子島の場合、三箇寺(本源寺・慈遠寺・大会寺)僧徒を本源寺に集めて、痘瘡軽安を祈らせた記事がしばしば見られます。またある郷士は、痘瘡が流行している地域に呪師として赴き、犬神(人に害をなすという目に見えない憑きもの)が里人を傷つけていると言ったりして訴訟にかけられ、寺入(罪科を犯した者に対する寺院での禁固刑)五箇月に処されています。これなどは疫病の流行に託けた流言蜚語の類いと言えます。

医学的な対処法としては投薬が上げられます。天保8年には松寿院(島津齊宣の娘、種子島久道の室)が「鶴膏」を痘瘡を患う者に与えて難痘を治したり、馬毛島で鹿狩りをして、「鹿茸」(鹿の袋角。補精強壮薬になる)を取った記事も見えます。

次に医師達の活動を見てみましょう。島内の村において痘瘡に似た患者が出ると村吏がこれを報告し、医師が視察して事の真偽を報告しました。そして一旦痘瘡が広まると医師達は懸命に治療に当たりました。その甲斐あって痘瘡が治まった後、褒賞を受けた医師の記事がしばしば見られます。

また一旦この病に罹ると免疫ができ再び罹患しないことが経験的に知られていました。そのため、まだ痘瘡に罹っていない子供を、痘瘡の流行地域に行かせ感染させることもありました。一步間違えば死に至りますので、反対する者も多かったようです。嘉永2(1849)年葦永村で反対者が多く出た時、百姓平吉の母親が自らの三人の子供達を進んで感染させ、「その心操衆に異なり実に以て賞すべし」として木綿六把を与えられています。

幕末になると、薩摩藩にも牛種痘法が伝えられ、嘉永3年正月には医師吉良元民に前田杏齋から種痘の方法を学ばせ、3月には杏齋が種子島家の二人の娘に種痘を行っています。安政3(1856)年には牛種痘法が種子島にも伝来しました。文久2(1862)年には種痘方掛なる職も見えるようになり、次第に島内に広まっていたようです。

ところで、痘瘡とは違いますが、同じ感染症である虎狼痢(コレラの異称)が安政6年頃島内で流行しました。万延元(1860)年正月10日条では、次のような話を伝えています。「金百疋を故八箇代半助妻に与える。是より先、虎狼痢大行、伝染して死者多し。半助下之郡に在りてこれを患う。人皆避けて視ず。その妻扶持懈らず。幾許もなくして死す。亦昼夜その屍を護してこれを葬る。故にこれを賞す」。人々が恐れて避ける虎狼痢と対峙して、夫の看病を続け最後まで看取った半助の妻の行動に心を打たれます。

現在に困難を感じた時には、過去の「史料」に立ち戻れば良い。過去の「史料」は決して解決方法を教えるものではありませんが、そこにはきっと未来への希望が見えるはずですが、「史料」は「過去と現在と未来を結ぶ」縁なのですから。



100冊の『鹿児島県史料』

調査史料室とは

調査史料室の前身は、昭和43(1968)年に県立図書館(以下、図書館。場所は現在の県立博物館)内に設置された県新史料編さん所(以下、編さん所)になります。3年後には最初の『鹿児島県史料』(以下、『県史料』)として『旧記録 追録一』が刊行され、同49年からは『旧記録 編』に加えて『幕末維新』編も刊行がスタートし、以来年2冊の刊行体制を取っています。

明治百年記念事業の一環として計画された『県史料』の刊行は、「県民の郷土の歴史に対する誇りと関心を高め、歴史の研究と教育の発展に資することを目的」(『鹿児島県明治百年記念事業報告書』1969年)として開始されました。同54年には現在の場所に図書館が新築移転し、それに合わせて編さん所も移転しました。

同58年には県歴史資料センター黎明館が開館し、この時編さん所は黎明館に統合され、調査史料課所属となりました。平成10(1998)年には機構替えが行われ、『県史料』の刊行を担当する調査史料室が設置され現在に至ります。同30(2018)年には事業開始50周年を迎え、今年3月に『県史料』通算100冊目を刊行しました。



こんな仕事をしています

学芸専門員 市村 哲二

来年3月刊行予定の「地誌備考八」(旧薩摩藩領内の地理などをまとめたもの)のグラを校正しています。

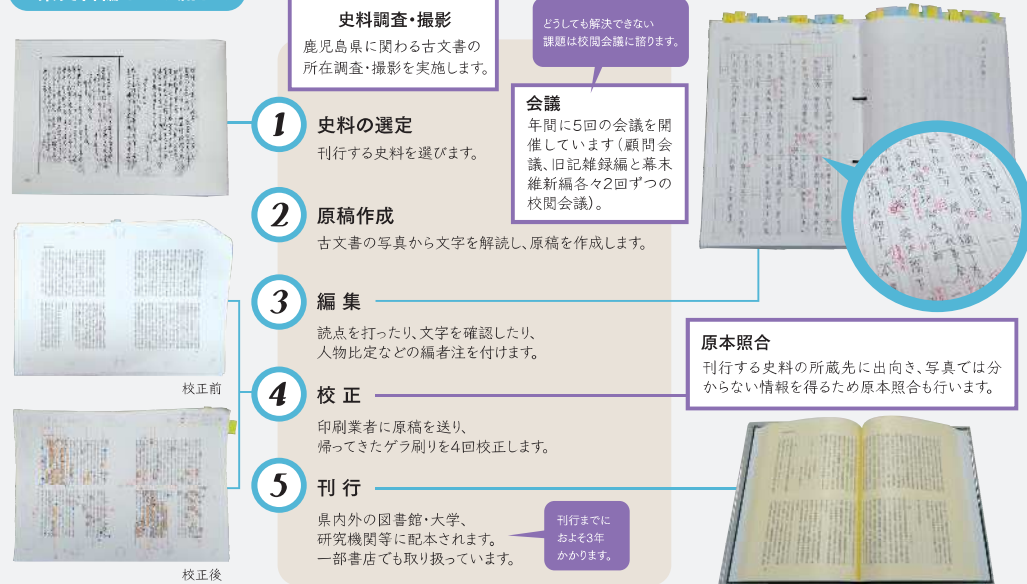


資料調査編集員 原田 紗代子

私は編集業務を円滑にするために、おもに底本やデータの整理と管理を担当しています。



県史料編さんの流れ



県史料、こうして使っています

『鹿児島県史料』は歴史を読み解く基礎史料

平成20年に催された「天璋院篤姫展」を担当しました。篤姫が將軍家に嫁くまでの経緯は、ほとんど「斉彬公史料」収載の史料から明らかにされたものです。また、幼名は系図等の編纂物を根拠に「於一」と考えられていました。しかし、同史料中、養父齊彬は嘉永6(1853)年の家老宛書状で「於市」と記し、斉彬側近の堅山利武も同様に記録しています。これが糸口となり、「於市」説を補強する史料が複数見つかり、嘉永6年頃は「於市」と称していたことが明らかになりました。

学芸専門員 崎山 健文

黎明館には、県外在住の本県出身者から先祖について調べたいと問い合わせが時折あります。そのような時に我々が紹介するのが「諸氏系譜」「家わけ」などの『県史料』です。質問者の家にある家系図なども手がかりにすつ、まず『県史料』を調べることをお勧めしています。

学芸調査係長 新福 大健

今秋の企画特別展「鹿児島島の城館」に関連して、古代の薩摩国府が、近世にはどこに比定されていたかを知るために、『覺藩名勝考』を利用しました。薩摩国府が置かれた位置については、薩摩藩が編纂した『三國名勝図会』の中で、御陵下町屋形ヶ原(屋形原)とされており、それ以前に成立した『覺藩名勝考』でも同様のことが確認できます。しかし、昭和39年と40年の発掘調査を行った結果、屋形原から東南約1キロの台地にある国分寺町・御陵下町にまたがる6町四方が、薩摩国府域に指定されました。

資料調査編集員 竹森 友子

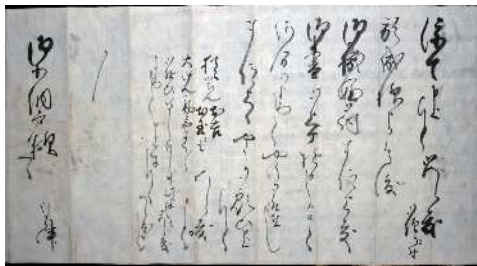
殿様や姫君に愛でられた犬、狛

学芸専門員 崎山 健文

はじめに

先日終了した企画展「あの人の家族への手紙 幕末維新」の準備で収蔵庫を渉猟した際、上流階級の人々に愛玩された狛という犬の記事を含む消息(書状)に出会った。展示では紹介できなかったが、飼いや犬の話が記録に残ることは稀であるので、他の狛関連資料と併せて、簡単に紹介したい。

1 仲津消息(写真は添状のみ。玉里島津家資料)



仲津から島津久光付きの小納戸へ宛てた消息である。仲津は、久光とその家族が居住する鹿児島城二之丸の大奥を取り仕切る御年寄である。小納戸とは、側役の下に付き、久光の側近く仕える役職である。

本消息に日付はないが、文中に「御前(久光)」が「一昨十五日五ツ時阿久根御立、出水御飯屋江ハツ半時御光着」とあることから、上京途上の17日付と推測できる。久光は幕末に4回上京しており、そのうち3回目(文久3年9月)は「久光公上京日録」(『鹿児島県史料 玉里島津家史料二』)により行程が詳細にわかるが、これと一致する。他の3回は日程やルートが異なることから、本消息は文久3(1863)年9月17日付と推定できる。

仲津の主な用件は、久光の子供たちが御機嫌伺いの贈物や書状を送るので、二之丸の近況報告と併せて、久光に取り次いでほしいというものである。この消息には添状が付随しており、その末尾に狛の記事がある。

「猶々、御ちん^{ママ}も大けん気ニ而、よくよく御遊ひいたしましらせ候事、此よしも御めて度よろしく申上奉まいらせ候。」

2匹の狛、お吉・お玉が大元気でよく遊んでいるということ伝えて。わざわざ報せるくらいであるから、久光はこの2匹を余程かわいがっていたのだろう。

ちなみに、島津家の菩提寺福昌寺跡に、恵燈院跡より改葬されたという犬の墓が11基あるが、「狗」・「洋犬」と刻まれたものはあるものの、「狛」の字は見えない。お吉・お玉の墓と推定できるものもない(『鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書80』)。慶応3(1867)年の二之丸の奥日記(玉里島津家資料)10月13日条に、「はく」という名の狛が亡くなり、浄光明寺へ葬られたとある。或いはこちらに埋葬されたのかもしれない。

2 江戸の菩提所に葬られた狛

江戸時代、江戸で落命した薩摩藩関係者が葬られた寺院がある。芝伊弉子にあった曹洞宗大圓寺である。残された過去帳8冊のうち、享和3(1803)年から文政4(1821)年の物語者を記した1冊にのびへの記述があり、その大半が狛のものである(『鹿児島県史料集14 薩陽過去帳』)。このうち文化2(1805)年の項に、法名・日付なして「高輪御隠居様 御狛雲事」とあり、同13年8月21日には「高輪御隠居様 俊狛霊子」とある。「高輪御隠居様」とは、高輪邸に隠居した8代藩主島津重豪を指す。その他、「高輪大奥」・「芝大奥」(芝邸は藩主とその家族が居住)等の狛14匹の情報が記されており、重豪やその家族が狛を大切にしていたことが窺える。

3 徳川斉昭書状(弘化2(1845)年11月11日)

前水戸藩主徳川斉昭から島津斉彬へ宛てた書状(『鹿児島県史料 斉宣・斉興史料』504-16号)。「御国産之黒狛^(御)殊ニ御秘蔵之由、御割愛不堪感謝候、御左右御馴^(電)ねト相見へ、直ニ拙膝ヲ離レ不申候、御手入故毛艶又格別ニ存候、」

斉彬が秘蔵の薩摩産黒狛を斉昭に贈ったところ、気に入ったように、「自分の膝を離れない、毛艶も格別だ」とうれしそうに伝えている。

斉彬の藩主就任6年前のことであるが、人脈の強化に狛が役買ったのではないかと推測される。

また、斉彬の養女で13代將軍徳川家定正室の敬子(篤姫)も狛を好んでいたが、家定が犬嫌いのため、仕方なく猫を飼っていたという逸話も残っている(三田村篤魚「御殿女中」)。興入れ前に鹿児島や江戸藩邸で狛に接していた可能性は高い。

4 調所広郷室もり消息(年月日なし)

家老調所広郷の妻もりが調所に宛てた消息。「伊勢事去ル初産致候所、二ひき生れ候へとも、一足は生候と直ニおち、跡一ひき元氣ニいたし居、只今の通りニ御座候へハすいふんよろしきちんふりと相ミへまいらせ候、」

「伊勢」という名の狛が2匹の子を産み、そのうち1匹は元気に育ち、順調にいけば「随分よろしき狛ぶり」になるだろうとの内容である。孫の友次郎(天保11(1840)年)出生しこれを溺愛している様子が記されていること等から、弘化年間(1844~48)前後の消息と推測される。狛の飼育は、藩の財政改革を成功に導いた調所の繁栄ぶりを覗かせる。

おわりに

玉里島津家資料に「狛秘伝書」なる横帳がある。薩摩独自のブリーダー手引書のような内容で、理想の外見、どのような雄雌を掛け合わせるべきか、食事の与え方、薬の製法等が記されている。島津久光や徳川斉昭等が魅了されたような狛は偶然の産物ではあるまい。



黎明館1階のカフェ&ショップではドリンクやクッキーをテイクアウトできます。ドリンクを片手には、ベンチで休憩するもよし、散策するもよし!ぜひ、お立ち寄りください。



前庭には、ベンチが置かれています。お気に入りの場所を探してみてくださいね。2は、御楼門建設時の端材を用いた「薩摩ベンチ」



御楼門の屋根に注目!

4 シャチ

御楼門の鯨は、はじめは瓦で製作される予定でしたが、城下士・名越時敏(左源太)の日記「常不止集」(『鹿児島県史料 名越時敏史料』所収)の中に、次のような記述がありました。「天保15(1844)年9月17日、天候は晴れ。御楼門の鯨はこれまで瓦だったけど、今回の修理で青銅にかわった。今日屋根にあがって来た。成田庄右衛門さんが製作したみたいで、ヒレのところに名前が記してある。足場が出来ているからのぼって来たけど、めっちゃコワイ」。現代の言葉にすると、こんな感じ。こうして、今回、御楼門の鯨は青銅で作られることになったのです。



夜にライトアップされた御楼門は、昼間とはまた違った姿を見せてくれます。

御楼門
正面からの御楼門は、遠くから見てもかっこいい! 桜島をバックにしたショットも撮れます。

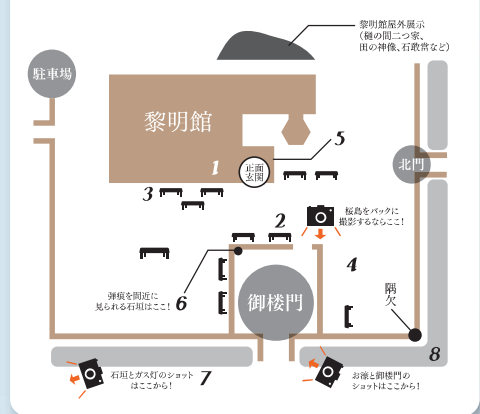
5

正面玄関付近には、原寸大のレプリカが展示してあります。実際にその大きさを体験してみてください!



御楼門さんぽ

完成以来、多くの方に足を運んでいただいている御楼門ですが、実はその周辺にも、見所がたくさんあることをご存じでしょうか? 今回は、そんな御楼門周辺の注目スポットをご紹介します。



6 石垣

石垣をよく観察してみると、弾痕跡を見つけることができます。この弾痕跡の多くは西南戦争(1877年)のときのもので、日本最後の内戦の記憶を、現代のわたしたちに伝えてくれています。また、北東の石垣を見てみると、隅が欠けていることがわかります。これは「隅欠」とよばれ、災い除けのために鬼門にあたる北東の角をなくしていると考えられています。



黎明館とその周辺文化施設をつなぐ舗道は、「歴史と文化の道」と呼ばれ、石畳やガス灯が整備された散策コースになっています。

7 ガス灯

島津斉彬が磯邸(現仙巖園)内の庭にある石灯籠に点火したのが日本のガス灯の始まりといわれていることにならぬ、御楼門前の国道沿いにはガス灯が建ち並んでいます。陽が落ち始めた頃の風景は、とてもロマンチックです。



夏の初め頃が蓮の見ごろ。ピンク色の花がお水に浮かぶ姿は幻想的です。

黎明館のお濠といえは、遊!

8 蓮

濠の蓮の由来については諸説ありますが、平成12(2000)年に七高史研究会がまとめた「七高造士館で学んだ人物(名簿編)」によると、「丹下丑之助」の項目に「丹下梅子の兄 鶴丸城の堀に蓮を植えた」とあります。丑之助は明治34(1901)年から2年間、第七高等学校造士館の数学教師、及び教頭を務めた人物で、丹下梅子(日本人女性2人目の博士号取得者)の兄です。しかし、丑之助が植えるより前に蓮はなかった、という決定的な証拠にはならず、依然として謎のままとなっています。

